

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成20年 10 月 15 日
事業所名	グループホーム円頓寺東館
事業所番号	2370401230
記入者名	職名 管理者 氏名 山本太起
連絡先電話番号	052-561-5466

(様式1)

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	これからは、ホームの内部をもっと公開し、地域の方々に知っていただく必要があると考えているので、地域の方々がホームを訪れやすい環境を整えたい
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	日々のケアの場面場面でも理念を意識し、その理念を伝えていく努力が必要である
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	家族への写真を添えた手紙を送る取り組みを行っている。継続して行きたい
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	近隣の方々に日々のお礼としてホーム側から何か出来ないかを検討している
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々への知識の還元ははまだ出来ていない	○	運営推進会議の場を活用し、認知症高齢者についての知識などを広めていきたい
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの評価の意義や目的をミーティングの場で職員全員に伝えているが、ミーティングの場での自己評価の作成は出来ていない	○	職員全員がサービス評価に対し理解出来る様に評価の結果をミーティング・日々の申し送りの中で省みる機会を作っていく
8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々が一同に介する機会を作る事が困難なため、月に一度の商店街の縁日を運営推進会議とし、地域の方々の意見を聞き取っている	○	年に1、2度は地域の方が集まれる場を作り、話し合う機会を作りたい
9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	協力が得られず、取り組みが出来ていない	○	区役所に出向き、再度協力を得られるように話しあっていきたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を利用している利用者がみえ、今後対応が必要な利用者には支援していきたい。職員にも説明を行っている		
11	虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの場で高齢者虐待防止法に関して話し合い周知徹底を図っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事業所のケアに関する考え方・取り組み・退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者・家族の不安に耳を傾け、誠実に対応している</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見を職員が1対1でじっくり聞く努力をしている。そこで出された意見をミーティングで話し合い、日々のケアに活かしている。利用者本人にミーティングに参加して頂く事もある</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族便り等の発行はしていないが、心身の状況については訪問時や電話等で逐一報告をしている。金銭管理については出納帳のコピー・伝票を毎月家族に郵送させて頂いている</p>	○ 家族便りにて利用者の心身の状況を伝える事になり、現在取り組み中である
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会というものがなく、家族の意見・要望が聞ける場が運営推進会議のみである。積極的に意見を取り入れる姿勢や努力が必要である</p>	○ 家族会の実施、家族への報告・連絡・相談の徹底
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年に1～2回必ず自己表価という個人面談を行っている。</p>	○ 個人面談により様々な意見、苦情が上げられ、意見が反映されるようになった
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の自由を守る事が出来る勤務体制を定期的に話し合い、見直す場を設けている。人手不足のため、柔軟な体制が取れるようなシフトが組めていない</p>	○ 利用者の活動の幅が広がるような余裕のある人員の確保

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの職員を固定し、馴染みの職員によるケアを心がけている。異動・離職する際にも事前に利用者に説明し、利用者のダメージを軽減する努力をしている</p>	○
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に一度近隣のホームと共同で勉強会や新たに年に数回の社内研修、役員研修を設けた</p>	<p>職員にアンケートを実施し、今後受けてみたい研修の聞き取りを実施した</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名古屋市認知症高齢者グループホーム協議会に加入しており、事業所同士の意見交換の場を設けている。月に1回西区のグループホームの勉強会・意見交換を通して他事業所の方の意見を取り入れている</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員は管理者に対し、意見や不満などを常に伝えてくださるのだが、迅速に対応できない事も多くある</p>	○
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の日頃の努力に理解を示して頂いていると共に、時には客観的に見て、的確に意見を述べて頂けるので職員は前向きに仕事に向かう事が出来ている</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居される際に新たにセンター方式をアセスメントシートとして導入した。これにより今まで以上に入居者の入居前の状況が把握出来るようになった</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>今までの経緯をしっかりと聞き、次の相談につなげている。話を聞く事により安心して頂けるよう努力している</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居者本人と家族が今何を望んでいるかを聞くとともに可能な限り柔軟な対応を行っている</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>今まで大切にしてきた習慣や人間関係を崩すことなく、入居直後はそれまでに関わった方にホームに会いに来て頂いたり、入居者が会いに行ける様に支援をしている</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は常に入居者と共に生活しているという事を心がけており、入居者から教えて頂くという事が図らずとも成立している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の思いを大切に、そのためにどのような支援が必要か、頻繁に電話連絡をしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や親しい友人宅への外泊を利用者・家族等が共に希望された場合、例えその日に決まった場合でも実現出来るように努力をしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の望む時に知人・友人に電話をして頂いたり、逆に電話をかけて来て下さる関係が保たれている		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	特別仲を取り持つ事はしておらず、利用者が共同生活の中で喜怒哀楽を表現して頂ければと考えている。生活の中で助け合い、かばい合い、時にはけんかをするのは当然だという考えを持っている		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後、ホームから連絡をしたり家族から連絡を頂いたりし、短期間ではあったが関係を保てた	○	サービスが終了しても、何らかの形で支援やアドバイスが出来ればと考えている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃から利用者の意向を聞ける努力をしており、身体的、その他様々な問題はあるが、まずは「本人はどうされたいか？」に一番の重点を置いている</p>	<p>家族のみえる利用者は本人の意向を家族に説明し、納得して頂いたうえでサービスを提供している</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者本人や家族の方からしっかりと話を聞き、これまでの暮らしの把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの出来ないことではなく、出来ることに着目しその人全体の把握に努めている。センター方式を取り入れ、その方の心身の状況の把握に努めている</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族には必ず説明し、その上で承認を得ており 思いや意見も反映させている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員は利用者の状態変化を記録し、本人の要望・状態の変化に応じて見直しを行っている</p>	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、必要な利用者は食事・水分量・排泄の状況を記録している。介護計画の見直しに活かせる記録の書き方を徹底している。また、勤務開始前の記録の確認を義務付けている		常に記録用紙に記入が出来るように当日分、前日分を個人ファイルに閉じず、バインダーに挟み、各フロアーに設置した
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今現在実施出来ていない		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	少しずつではあるが、教育機関からの実習生の受け入れを行っている	○	今後、実習生、入居者にとってより良い環境となるように設備、待遇面を整えていきたい
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今現在行っていない	○	近隣のケアマネジャー・サービス事業所と連携を図りたい
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護センターを活用している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。また受診や通院は本人やご家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようしており、利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>今現在、近隣に認知症専門医がない</p>	<p>○</p> <p>近隣に認知症専門医がないため、遠方ではあるが受診をして頂いた</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>介護職員と看護職員との間に気軽に相談出来る関係が築かれている</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために医師と話をする機会を持ち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来るよう、アプローチしている</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>かかりつけ医に相談し、本人の意思を尊重し、状態の変化に応じて対応している。重度化した場合の指針をご家族、入居者と話し合っている。入居者の身体の状況に応じ、常に話し合っている</p>	<p>○</p> <p>重度化してからでは遅いので、早期から話し合いを重ね、事業所と家族とのズレがないようにしていく</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごして頂けるように取り組んでいる</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの際は家族、主治医、事業所で何度も話し合い、他事業所へ移る際はケアプランやその他情報提供を行うことが出来た		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の話をする時は部屋を変えたりし、他入居者の耳に入らないよう努めている		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声かけを行っている。場合によっては個室にて話しを聞くようにしている。食事のメニューは利用者に決めて頂き、買い物に出掛ける。「何でも良い」と言われる方にも必ず意見を聞くようにしている		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の中で決まっているのは3度の食事くらいで、その他の事は利用者がその日・その時したい事を職員が全力で実現に向け努力している	○	職員の一方向的な押し付けになっていないか、常に自問自答し、ミーティングでも話し合う
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時のみ手伝うようにしている。毎日化粧をしている利用者もみえ、おしゃれ等も楽しんでいる	○	ボランティアを依頼し、ヘアカットや化粧など普段しない方にも楽しんで頂けるようにしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その日その日で利用者と共にメニューを決めている。調理・盛り付け・片付けに至るまで利用者と共に行っている。朝・夕は職員と利用者が一緒にテーブルを囲んでいる</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の希望される時に提供できるよう支援している。また、お酒に関してもかかりつけ医と相談し、楽しめるよう支援している</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>入居者のペースに合わせてようとミーティングで決まり、特別トイレ誘導は行っていない</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>朝～夕方まで余裕の持てる職員の配置をしている。拒否された方には無理強いせず、気の向いた時に入って頂く様にしている</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中なるべく活動して頂くよう心がけ、夜間は気持ちよく休んで頂ける様にしているが、夜なかなか寝付けられない方は無理に寝てもらおうとせず話を聞いたりし、落ち着いてもらえる様にしている</p>	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事作り、ご飯の盛り付け、後片付けなど一つ一つを入居者の役割として認識され行って頂いている。しかし、入居者全員がいきいきと生活しているとは言えない</p>	<p>○</p> <p>まだスタッフが気づいていない入居者ひとりひとりの可能性を探る必要がある</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出す事で社会性の維持に近づけており、少額を手元に持ってもらっている		ご自分の財布やお金をどこにしまったのかを分からなくなる入居者もみえるのでお渡しする金額、保管・管理する方法を入居者ひとりひとりに合わせて変えている
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日外出はしているが、特定の入居者に偏りがちになってしまっている。		余り外出されない入居者にも必ず声をかけるようにしている。 余り成果は出ていないが継続して行っていきたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年恒例の温泉旅行に出掛け、普段とは違った環境を楽しんで頂いている。 入居者の昔の馴染みの場所や墓参りなど希望に沿って援助している		個別の一泊旅行を現在計画中です
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話をいつでもかけて頂けるようにしている。	○	手紙に写真を添えて送れるように入居者に提案をしているが、まだ浸透していないのか「送りたい」とほとんどの方に言われてしまう
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、ご友人などに訪問して頂いているが落ち着いて過ごせるスペースがないため、他入居者を交えお話しをされるか自室にて過ごされることが多い	○	入居者の自由を妨げない様に居間は広くスペースを確保しているのだが、ソファなどを設置してゆっくりと過ごして頂ける環境を作りたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等の場で日々のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われてないかを確認している		直接的な身体拘束だけでなく、間接的な身体拘束や言葉による身体拘束もあることを伝えている

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、後ろから見守ったり、必要に応じて声を掛ける様にしている。 玄関の施錠は夜間のみになっている</p>		<p>玄関が開いたらセンサーが反応し、音が鳴るようになっている。 職員は常にその音を意識し、気をつけるようにしている</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。 夜間は、数時間毎に利用者の様子を確認している</p>		<p>フロアが1階と2階に分かれているため全体の状況が把握しにくい。夜間は入居者の多い2階に待機している</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>貴重品・医薬品以外の物品については基本的に個人で管理して頂いている。食品に関しても食品購入表を設け、入居者に見えない所での管理をさせて頂いている</p>	○	<p>なま物については1日1回以上見回りと申し送りにて必要に応じて摂取して頂くもしくは処分をさせて頂いている</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。 万が一の事故が発生してしまった場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の対策について検討している</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>急変や事故発生時のマニュアルを作成し、まずどつすべきかの周知徹底を図っている</p>		<p>看護師による指導と社内研修を取り入れている</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災と地震の2ケースを想定し、年に2度防災訓練を行っている</p>		<p>地域の方の協力は未だ得られていない。地域の消防団に協力を得たい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の自由な行動により、様々なリスクが発生するが、力の発揮やその人らしい生活がその方の表情を明るくしている事をご家族に説明し、理解を頂いている	○	その人らしさを優先し過ぎて、安全面の配慮を忘れない様心がける
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の利用者の状況を把握しており、変化が見られた時にはバイタルチェック、看護師への相談、必要に応じ主治医への受診をしている		入居者の細かな変化に気づくことができるように、顔色、声の調子などを注意して観察している
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の薬剤情報をファイルに閉じ、職員全員が把握出来る様にしている。 飲み忘れのない様に配薬当番を決めている		飲み忘れが発生した場合は事故報告書を作成し、常にどのような支援が必要かを検討している
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は利用者の水分補給に気をつけている。便秘の方には、直ぐに服薬ではなく、まずは排便を促す食品を摂取して頂いている		1カ月の入居者の様子を記す日課チェック表の中に排便チェック欄を設け、排便のリズムを把握している
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科を利用し、口腔ケアについての管理をして頂いているが、毎食後の口腔ケアの徹底には至っていない	○	起床時と就寝時の口腔ケアを行っている
栄養摂取や水分確保の支援			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に3回の食事管理を行っている	○	食事の写真、細かい内容を記し、カロリー計算をしている。今現在は概ね基準値である



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して、主治医に相談し、対処方法を学んでいる。その知識を職員共通の意識としている。対応マニュアルを設置している		その時々に応じ、看護師、主治医から対応方法を指導して頂いている
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は毎晩漂白を徹底している。冷蔵庫の中身も定期的に点検し、鮮度や状態を確認し、処分・冷凍している。その日購入した物はなるべくその日に調理し、頂く様にしている		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設色が濃くなるため、未だに看板は設置していない。入り口に駐車場を設置したため入り口が見えにくくなった	○	依然建物が目立たないため、今は「分からない」と言われる方には職員が迎えに行くなどして対応をしている
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレと居間の間には扉を一枚設けてあり、配慮をしている。入居者の好きな物が少しではあるが壁に貼ったり設置したりし始めている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の広さがないため、一人ひとりの居場所が食卓の椅子しか無い	○	居間にソファが置けないかを目下検討中です

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は自宅で使用されていた物を持って来て頂けるよう依頼している。 現在入居している方については余り自室で過ごす事がない事もあり、必要最低限の家具があるだけである	○	入居者の馴染みの物がないかを探ったが情報が少なく模索中である
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は定期的に行っているが入居者個々によって暑さ寒さの感覚が違うので、窓を開けたり閉めたりが頻繁になる事もある		必要最低限の換気は行っているが、入居者の感覚に任せて行っている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、必要に応じて新たに手すりを設置した。		常に何処にどのような設備が必要かを検討していきたい
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は黒子として接し過剰に援助しない様に心がけている		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで洗濯物を干したり、野菜や花を栽培している。 玄関先にも花を飾り水遣りを行って頂いている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 す る 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ここ一年で地域活動の中で地域の方々とは繋がりがかなり出来てきたと感じています。 今後は地域の方々と協力し、さらに地域・ホームの入居者が輝けるような取り組みを考えて行きたいです。